

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子三田五丁目保育園
施設所在地	東京都港区三田5-4-3 三田プラザビル3階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（樹木）とSDG s

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

本園は都心にあるため、子どもが自然と触れ合う機会が少ない。その中で「エコ」をテーマとした区の施設があり、栽培や自然を学べる事が出来るので活用しようと思った。これからの社会を担う子どもたちに自然の大切さを知ってもらうために「自然とSDG s」をテーマとして活動をしたと考えた。

## 2. 活動スケジュール

### 【6月】

園が日常的に園外活動で訪問している公共施設でコットン栽培を教えてください  
子どもたちが興味を示し、やってみたい⇒コットンの植えと水やり、成長記録の観察

### 【7月】

コットンでお世話になった施設の紹介で、新しく地域の公共施設を訪問  
子どもたちが間伐材に興味を示し、やってみたい⇒間伐材を使用したキーホルダー作り  
園内活動に広げるために間伐材を使った積み木作り  
戸外遊びでも公園にどんな木があるか探索が始まる

地域公共施設訪問時にSDGsの話聴き、本を読み、SDGsについて知る  
子どもたちの興味がSDGsに広がり、担任とともに話し合い、自分たちにできるSDGsを考える。  
園オリジナルの”SDGsポスター”作り、園内に掲示する⇒子どもたちが自分たちで決めたSDGsを守りようになり、お互いに声を掛け合い、SDGsが園内に浸透。

### 【8月】

間伐材の意味を子どもたちが実感するという体験をさせたいとスタッフが考える  
黒い傘を利用した木漏れ日体験⇒子どもたちが間伐材の存在を感じる。  
近所の材木店や地域の公共施設からの紹介で、間伐材をもらい、遊具として利用できるように子どもたちがやすりがけを行う。

### 【9月～12月】

育てたコットンを収穫し、コットンが何に使えるか子どもたちが調べる⇒人形を作り、中にコットンを入れて、遊具として遊ぶ

### 【10月～12月】

SDGsを教えてください公共施設のスタッフからの案内で、保護者に声をかけし、使用済みの封筒や古紙を集めてもらう⇒古紙で紙粘土について教えてください、粘土作りをする。  
園でもやりたいという声上がり、古紙を使った紙漉き

### 【1月】

間伐材で作ったままとテーブルと椅子が納品される。  
子どもたちが一年間作ってきた間伐材の積み木、コットンを詰めた人形、紙粘土を利用した食材を使って豊かなままと遊びを行っている

### 【2月】

2月7日の保護者会で、一年間の取り組みをドキュメンテーションを使って保護者に発表をした。自宅でも話題に上がっており「もったいない」「木には間伐材もあるよ」など子どもか教えられることが増えたとの言葉をいただいた。また保護者の中に林業に携わる方がおり、3月で卒園ではあるが、次年度子どもたちに「講演をしたい」との協力の申し出があった。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

SDG s の書籍→自由に閲覧できるようにして子どもたちの学びを深める

間伐材を使ったままごとテーブル、子供用の椅子

近所の材木から購入した間伐材。

人形用の素材。

地域公共施設の訪問で様々な体験、活動のアイデアをもらう

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

①地域公共施設の訪問で様々な自然体験に触れることで、子どもたちの興味が深まる

②園内でSDG s について保育者と子どもが話し合い、自分たちのできることを考えてポスターを制作し、子どもたちのSDG s につながっていく

③さらに自然と関わりながらSDG s の考えを聞き、深めることで、コットンの栽培、間伐材の利用など活動を広げ、SDG s の意識を深めていく

④子どもたちが作ったものを保育室内で日常的に使うことで、SDG s の考えが浸透していき、さらに深く考えるきっかけになる

⑤子どもたちが一年間を振り返り、保護者にもSDG s を伝えていく

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「間伐材」という言葉の意味そのものが理解しきれていないと子どもたちの表情から感じたので、傘を使った木漏れ日体験を行ってみた。実際に自分が木の役をし、傘で日が当たらない時は「暗い!」、傘を閉じると明るさを感じる体験をすると「わー明るくなった」と間伐材についての理解が深まった。

実際に間伐材を作ることに子どもと話をする。「ギコギコのこぎりで切る」との声が上がる。傘を減らしていくことで、日が差し、気が成長するには「太陽」「水」が必要であると理解していた。

エコプラザで体験したことについて、保育者が「間伐材について知って欲しい」「木について興味をもち知って欲しい」「SDGsにつなげたい」という思いがあった。身近に間伐材があることを伝えたことで、子ども達も間伐材やSDGsに興味をもつようになった。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ①取り組み前の姿 自然体験の不足、SDGsについて興味のない状態からスタート
- ②地域の公共施設を使った計画を立てる。様々な体験をすることで子どもたちの興味に火が付いた。  
SDGSの取り組み（ポスター作り）をする中で、保護者の方からも「家でSDGSをしています」「水もったいないから止める」等を言っていると聞くことが増えた。園での取り組みが家庭にも広がってきていることを実感している。
- ③保育者自身も公共施設の訪問からアイデアが生まれる。子どもたちと相談しながら気づきを得る。  
子どもたちは自然が周辺にないから興味をもたないのではなく、興味をもつきっかけがなかったということ認識する。
- ④ままごとコーナー SDGsが日常に浸透。来年は保護者と一緒にしたい。保護者を加えることでさらに活動を深めたい。